

<p>展開 1</p>	<p>35</p>	<p>3. 「この子がねえ〜」を使って話し合いをする。</p> <p>(5) ①事例シート「この子がねえ〜」を、ファシリテーターが読み上げる。</p> <p>(10) ②わが子がいじめの加害者だったら、保護者としてどんな行動を取るかを考え、付箋に書く。</p> <p>(10) ③模造紙の上側に「保護者」と書いて、線で囲む。</p> <p>④各自が考えた行動を、模造紙に貼り付ける。</p> <p>(10) ⑤グループで話し合い、「とるべき行動」は、誰に対するものなのか、矢印で示す。(模造紙に「対象者」を書いて、線で囲む。)</p>	<p>■個人作業です。自分がAの保護者だったら、どんな行動を取りますか。付箋に書いてみましょう。(1枚の付箋に1つの行動)</p> <p>■模造紙の上側に「保護者」と書いて、線で囲みましょう。</p> <p>■グループで話し合いながら、各自が付箋に書いた行動を、保護者の下に、並べて貼り付けましょう。</p> <p>■グループで話し合いながら、「とるべき行動」は、誰に対するものなのか、模造紙に、とるべき行動の「対象者」を書いて、線で囲み、矢印で示しましょう。</p>	<p>◆ファシリテーターや参加者で役割を決め、朗読劇をすることもできる。</p> <p>◆グループ用に事前配布 ・模造紙 ・付箋 ・マジック ・シール</p> <p>◆重複する内容があれば付箋をまとめる。</p>
<p>展開 2</p>	<p>5</p>	<p>4. 留守宅ウォークをする。</p> <p>(5) ①他のグループに出向き、良いなと思う「とるべき行動」にシールを貼っていく。</p>	<p>■他のグループの留守宅にお邪魔し、良いなと思う「とるべき行動」に、気兼ねなくシールを貼みましょう。</p>	<p>◆シールが足りなければ○印を書かいて表現させる。</p>
<p>展開 3</p>	<p>20</p>	<p>5. 最良と思える「とるべき行動」についてグループで話し合う。</p> <p>(10) ①他のグループが留守中に貼ったシールも参考に、最良と思える「とるべき行動」についてグループで話し合い、複数あれば順位をつける。</p> <p>(10) ②各グループの最良と思える「とるべき行動」を発表する。</p>	<p>■グループで話し合います。他のグループが留守中に貼って行ったシールも参考に、最良と思える「とるべき行動」を考えましょう。複数あれば順位を付けましょう。</p> <p>■後で、いくつかのグループに発表していただきます。発表者は「ウルトラジャンケン」の勝者をお願いします。</p> <p>■各グループで話し合った最良の「とるべき行動」について、発表していただきます。発表者は挙手をお願いします。</p>	<p>◆矢印の上に①②と「とるべき行動」の順番ではなく良いと思う順位</p> <p>◆意見交換の活発なグループをチェックしておく。</p> <p>◆手の上があったいくつかのグループに発表してもらう。(挙手がない)</p>

				場合、チェックしていたグループを指名する。)
まとめ	10 (5)	6.ファシリテーターがまとめる。	■平成25年度に公布された「いじめ防止対策推進法」を踏まえてまとめをします。	
<p>■加害者の保護者は、冷静に子どもと話し合い、注意深く、存在するいじめの事実確認をすることが大事です。また、状況により「うちの子は悪くない」と思うかもしれませんが、暴力をふるった事実を受け止め、キチンと被害者の子どもや保護者に謝ることも大事なことです。</p> <p>さらに、加害者である子どもに、被害者の子どもの気持ちを察したり自分を振り返らせたりし、責任行為や思いやりを説諭することで、「本当に悪いことをした」という深い反省と「二度としない」という再発防止の決意をさせなければなりません。そして、子どもが加害者になってしまった場合、家庭を振り返り、これまでの子どもへの接し方など反省するところは改善をするといった保護者自身の努力も大事です。</p> <p>■加害者側、被害者側の当事者の立場や傍観者の立場であっても、いじめを子ども同士とか当事者家庭の問題と捉えず、クラスや学校、地域の問題として捉え、より良い人間関係や信頼関係を築いていくことが、いじめの抑止や解決に立ち向かう行動力となることを理解しましょう。</p>				
	(5)	7.ふりかえりシートに記入する。	■最後に、本日の学習を振り返っていただき、終わりとしたと思います。	

(80分)

【学習資料】

「この子がねえ〜」

携帯電話の呼び出し音（ナレ）：「ピッピピ・ピッピピ…（繰り返し）」

A君の母：「あら電話だわ。忙しいのに誰かしら？」

「シモシモ、あらB子さん(Bちゃんの母) お久しぶりね。お元気だった？」

Bちゃんの母：「今晚はA子さん(A君の母)。ご無沙汰です。今、お店大丈夫？」

A君の母：「…大丈夫よ。今、暇だから。何？」

Bちゃんの母：「気を悪くしないでね。実はこないだね、うちのBがCちゃんと学校の帰り、おたくのA君とD君とE君の3人でF君を田んぼに落としているのを見て言うの。また別の日にも叩いたり蹴ったりしているところも…おたくのA君のことだけに心配になって…どうしようか迷ったんだけど、思いきってA子さんに電話したの…ごめんね。」

A君の母：「え！うちのAが、F君を田んぼに落としたり、叩いたり蹴ったりしてるってこと、それもD君とE君と3人で？ほんとに？それじゃあまるで「いじめ」じゃないの。そんな子に育てた覚えはないんだけどなあ。でも、B子さん、よく知らせてくれたわ、ほんとにありがとうね。」

ナレ：お店が一段落したA君の母は、用意しておいた夕食をテレビを見ながら食べているA君に声をかけました。

母：「今日は遅かったなあ、宿題は終わったん？」

A：「まだ…。後でやるって～。それに母さん、明日休みだよ。」

母：「休みって言っても、朝早くからスポ少だが。ごはん食べたら風呂入って、宿題して寝ないけんで。」

A：「は～い。」

ナレ：A君の母は、Bちゃんのお母さんからの電話内容について、A君に確かめようと思っていましたが、いつもと変わらない笑顔のA君に聞くことができませんでした。

お店が終わった後、事の次第を夫に話しました。

父：「ほんとうにうちのAが？子ども同士の悪ふざけじゃないんか。でも、3対1は良くないけどな。」

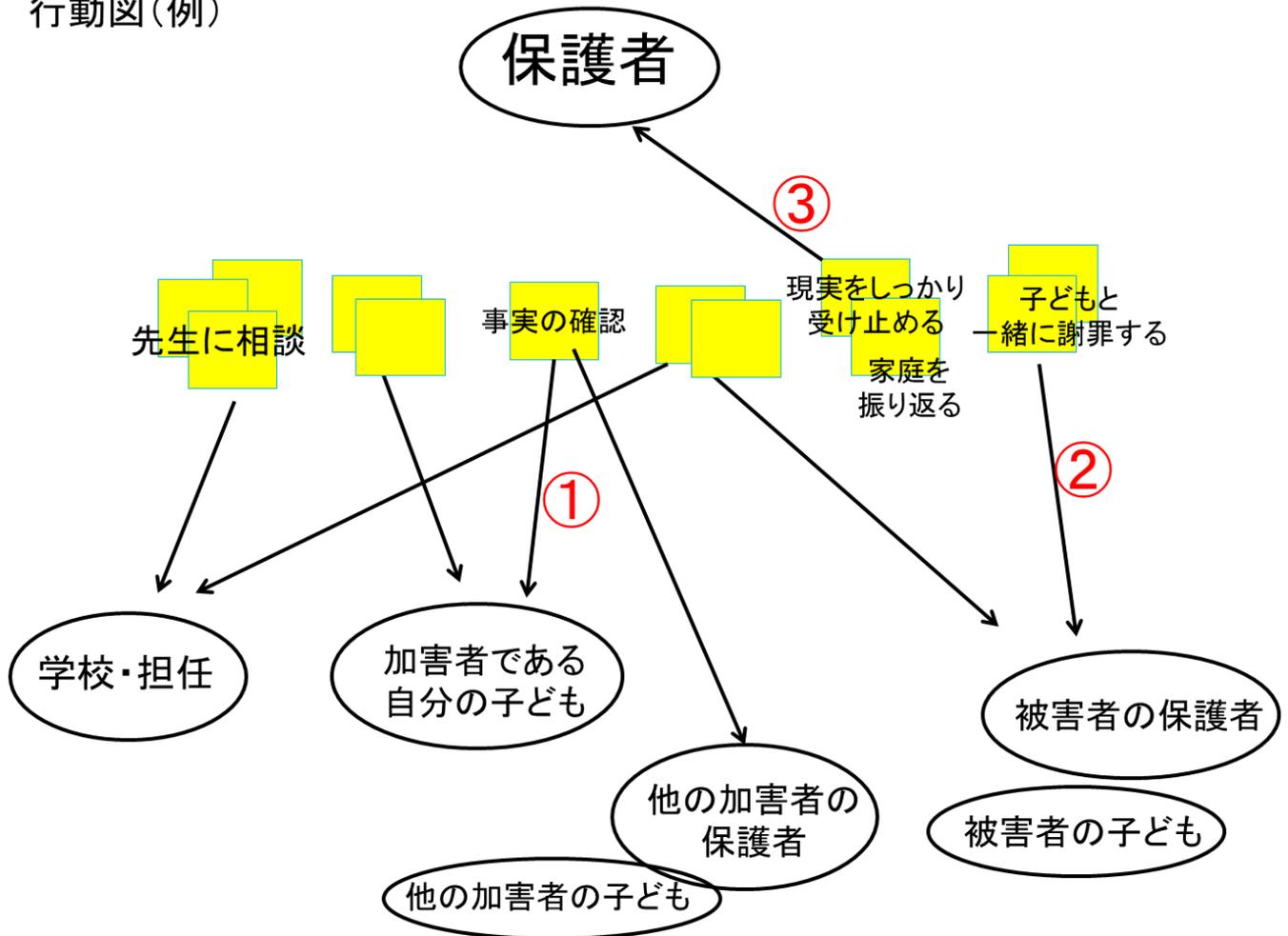
母：「まだ、Aにも確かめてないけど、B子さんの話の様子ではF君をいじめているグループの中にAもいるみたい。もしF君にケガでもさせていたらと思うと…何だか心配だわ。」

父：「Aは人にケガをさせるような子じゃないけど…。子ども同士のことだから親が騒がなくても大丈夫だろう。」

ナレ：夜遅く、枕元にユニホームを置いて、ぐっすりと寝ているA君のあどけない顔を見ながら、A君の母は思わずつぶやきました。

母：「この子がねえ〜」

行動図(例)



【16】

テーマ「本音が言える環境づくり」

タイトル「発見！みんなが持っているいじめストップ力」

【学習のポイント】

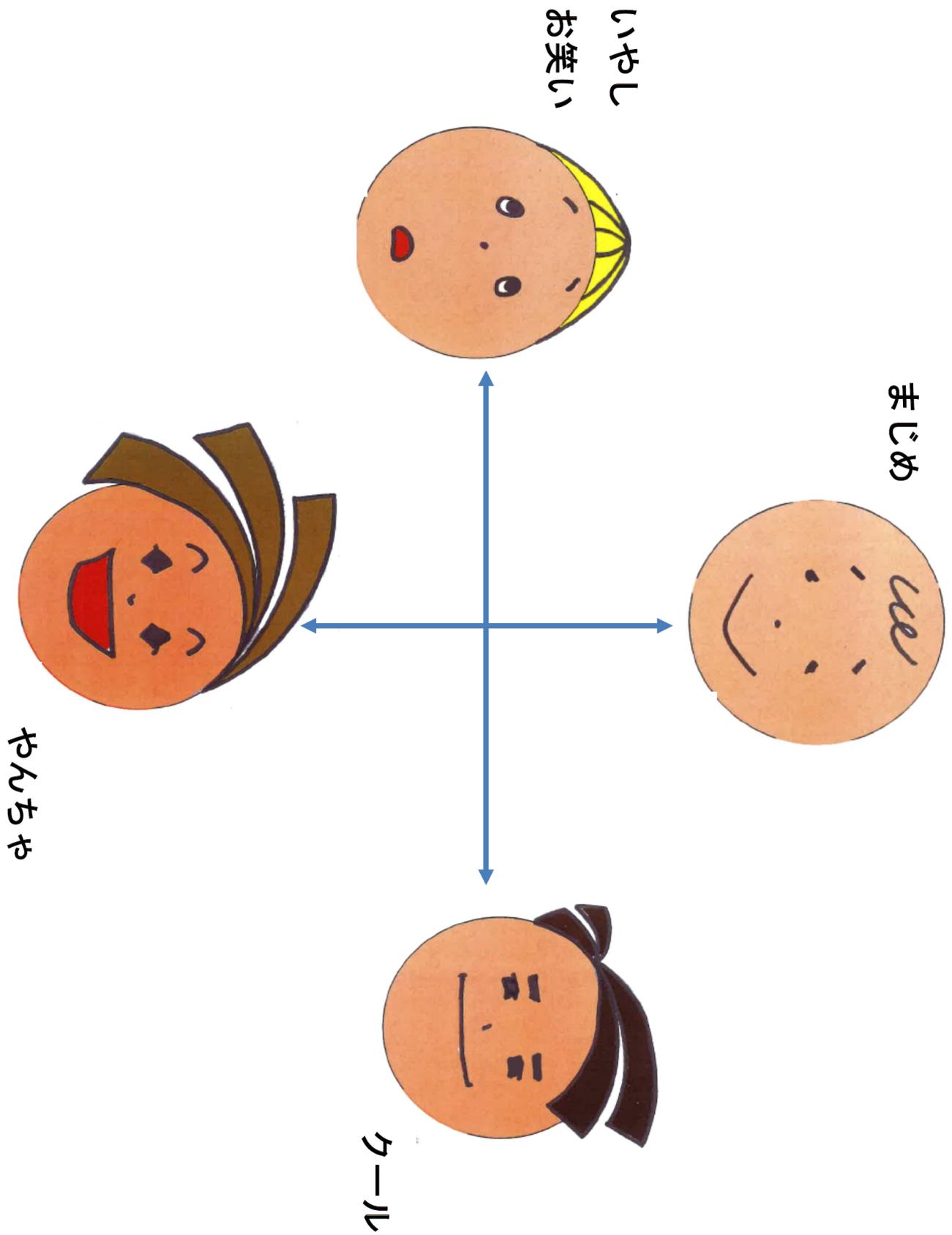
○日頃の生活や会話の中から、いじめの未然防止につながる力を持っていることに大人も子どもも気づき、行動につなげる。

【すすめ方（80分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	4 6	1 活動のねらい、話し合いのルールを確認 ・ファシリテーターも自己紹介する。 2 アイスブレイク ○○キャラで自己紹介 (子どもの学年も交えて自己紹介しましょう。)	■「まじめなおしゃべり」 ■お互いの経験や体験を出し合い、会話で理解を深めていく活動です。 ■小学生の時、あなたは何キャラでしたか？付せんにニックネームを書いて図に貼りましょう。	◆「参加・尊重・守秘」を掲示しておく。 ◆席は4～5人グループ ◆自己紹介シート（A3）提示 ◆呼んでほしい名前を記入する付せんを配る。 ◆自己紹介シートに直接書き込んでもよい。
展開1	3	3 イラストの場面について感想を出し合う。	■あるクラスの休けい時間の様子です。日頃どのような状況か想像してみましょう。	◆場面イラスト①（A3）を貼り、上辺を折った模造紙を配る。 ◆ファシリ用のイラスト（A2）を掲示しておく。 ◆黒ペン
展開2	7	4 グループの中で出たつぶやきを黒ペンで書き、吹きだして囲む。		◆黒ペン 例：次は算数か…
展開2	5	5 エスカレートしていく状況を説明する。	■実は、こんな状況です。グループで『プロレスごっこ』を読んで共有しましょう。	◆場面説明『プロレスごっこ』（A4）を配る。 ◆場面イラスト②（廊下に先生と児童の絵）を追加する。
		エスカレートして状況が変わってきた時、それぞれの心の動きを書く		
	15	6 状況を把握した後でどの子がどんな言葉や行動になるのか、それぞれの心の動きを想像する。	気持ちやセリフ（心の動き）を赤ペンで書いて、くも型の吹きだして囲みましょう。	◆赤ペン ◆ユウタ、タケシ、周りの子は何を感じ始めるのか。
	1	・経験をもとに、さまざまな「気持ち」を出し合ったことを確認する。	■自身の体験や子どもとの関わりがあるからこそ本音の気持ちが出ました	◆「○○キャラだから～」 例：いつまで続くの？

			ね。	「本音は～」といった視点からも考えてみるように促す。
展開 3	10	7 日常生活を振り返り、具体的な声かけや行動を紹介し合う。 ・家庭で「やっていること」を青ペンで書いて、四角で囲む。 ・事例を紹介する。 例：手書きの「おかえり」貼り紙	<p>■子どもが安心して本音と言える環境のために、日頃家庭でやっている具体的なこと（声かけや行動）を、模造紙の空いたところに青ペンで書いて、四角で囲んでみましょう。</p> <p>■子どもがホッとする身近なエピソード紹介</p>	<p>◆展開 2 までの活動をまとめる。</p> <p>◆青ペン</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; color: blue;"> <p>例：クラスの友だちの名前を覚える！</p> </div> <p>◆おかえりチラシを掲示 「おかえりと 家に帰ると 書いてある チラシのうらでも うれしいよ」（小4男子 短歌）</p> <p>◆シールを配る。 （1人3枚）</p>
	10	8 ギャラリーウォーク	<p>■他のグループを見て、共感するものや参考にしたところ【青字】に共感シールを貼りましょう。</p>	
まとめ	12	9 子どもが安心して本音を語れるため明日から出来そうなことを考える	<p>■模造紙に貼られた共感シールや今日の活動を振り返ります。</p> <p>■子どもの本音に寄り添いたいという気持ちを込めた「明日から出来そうなこと」をグループで考えましょう。</p>	<p>◆折り返しておいた模造紙の上辺に青ペンで大きな字で書く。</p> <p>◆ギャラリーウォークで仕入れた意見も参考に促すように促す。</p>
	5 2	10 ファシリテーターが各グループのまとめを紹介 11 まとめ ・活動で印象に残った意見などを紹介するのもよい。		◆資料「まとめ」を配る。
<p>これまでの活動を通して「明日から出来そうなこと」を考える。</p> <p>■いじめの未然防止を考えるプログラムでした。傍観者（周囲の人）の少しの気づきと行動が、いじめをさせない人間関係につながります。</p> <p>■どんな本音も受け止めたいと思う大人の気持ちを、言葉や行動で子どもに伝えていきたいと思ひます。</p> <p>■いじめに気づく力も、差別をなくす力も私たち一人一人が持っています。</p>				

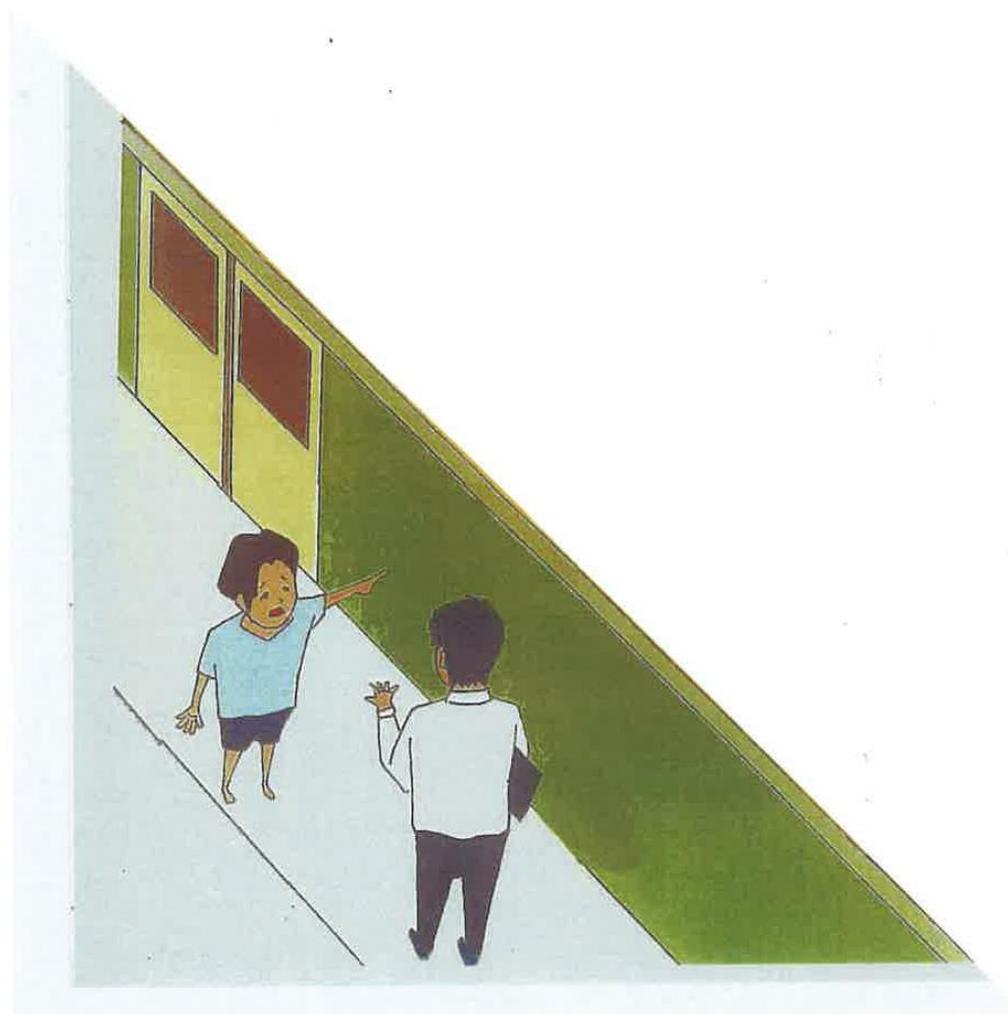
【自己紹介シート】(A3版に拡大)



【場面イラスト①】（A3版に拡大）



【場面イラスト②】(A3版に拡大)



【場面説明】「プロレスごっこ」(A4版で配布する)

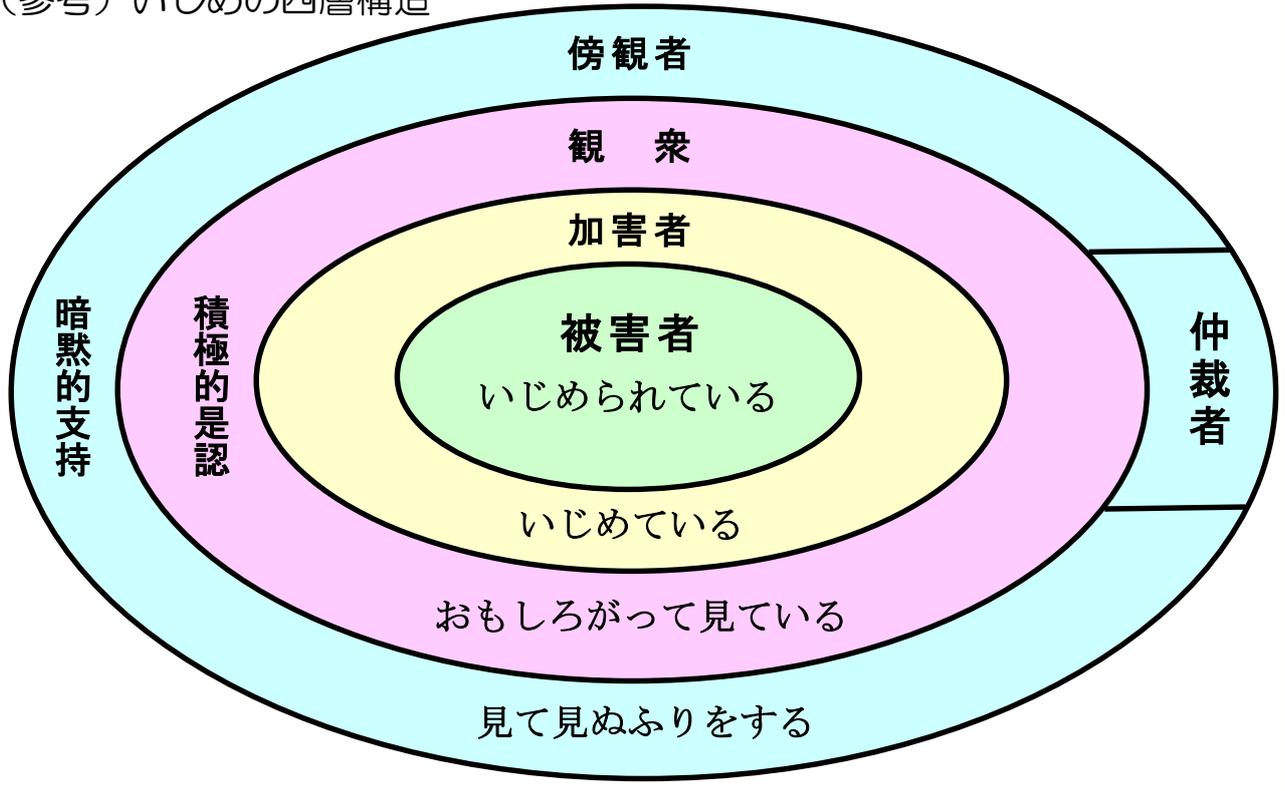
プロレス好きのタケシ君が、クラスのユウタ君を誘ってプロレスごっこをするようになりました。

遊んでいるうちにお互い熱くなって、むきになってしまいました。弱いと思っていたユウタ君が予想以上に強かったので、タケシ君は他の友達に命じて、2対1や3対1でユウタ君とプロレスごっこをするようになりました。ユウタ君が笑いながら「エヘヘ！参った。降参。」と言ってもやめてくれません。周りの級友も笑って見えています。

ある児童が担任に、いじめがあると伝えました。担任がタケシ君やユウタ君に確認すると、二人ともふざけていただけだと答えました。担任は特に指導することもなく、プロレスごっこは今日も続いています。

まとめ

(参考) いじめの四層構造



いじめ集団の四層構造モデル 森田洋司氏

- 日本の子ども（集団）は、傍観者から仲裁者となる力をつけていくことが課題としてあげられます。
- 「いじめ防止対策推進法」（平成25年9月施行）で、子ども、保護者に対してもいじめ問題への関わりが規定されました。いじめを子どもの責任だけの責任とすることなく、子どもがいじめに向かわないようにするために、常日頃から家庭でも「いじめは絶対にしてはならない」と指導することが求められます。

鳥取県教育委員会事務局ホームページより

○『子どもでもわかるように「いじめ防止対策推進法」を解説』から一部抜粋 碓井真史氏

第2条 いじめの定義

いじめとは、子ども（児童生徒）が、ある子どもを心理的、物理的に攻撃することで、いじめられている子の心や体が傷ついたり、被害を受けて苦しんだりすることです。インターネットいじめも、いじめです。（「普通の子なら、このていどやられても平気だよ」は、言い訳になりません。この子が傷つけば、いじめです。）

第9条 保護者の責任

お父さんやお母さん、子どもの保護者は、子どもを教育する責任があります。子どもがいじめをしない子に育つよう、努力します。自分の子どもがいじめられたときには、子どもを保護します。また、学校などが行ういじめ防止活動に協力するよう努力します。

【17】

テーマ「大人（地域）の在り方を考える」

タイトル「いじめられる子にも問題があるの？」（小学校高学年以上向き）

【学習のポイント】

○いじめの子がいなければ、いじめは存在しない。いじめを子どもだけの問題としないために、大人として大切なことは何かを考える。

【キーワード】

○子どもの居場所、自尊感情、社会的支援

【すすめ方（85分）】

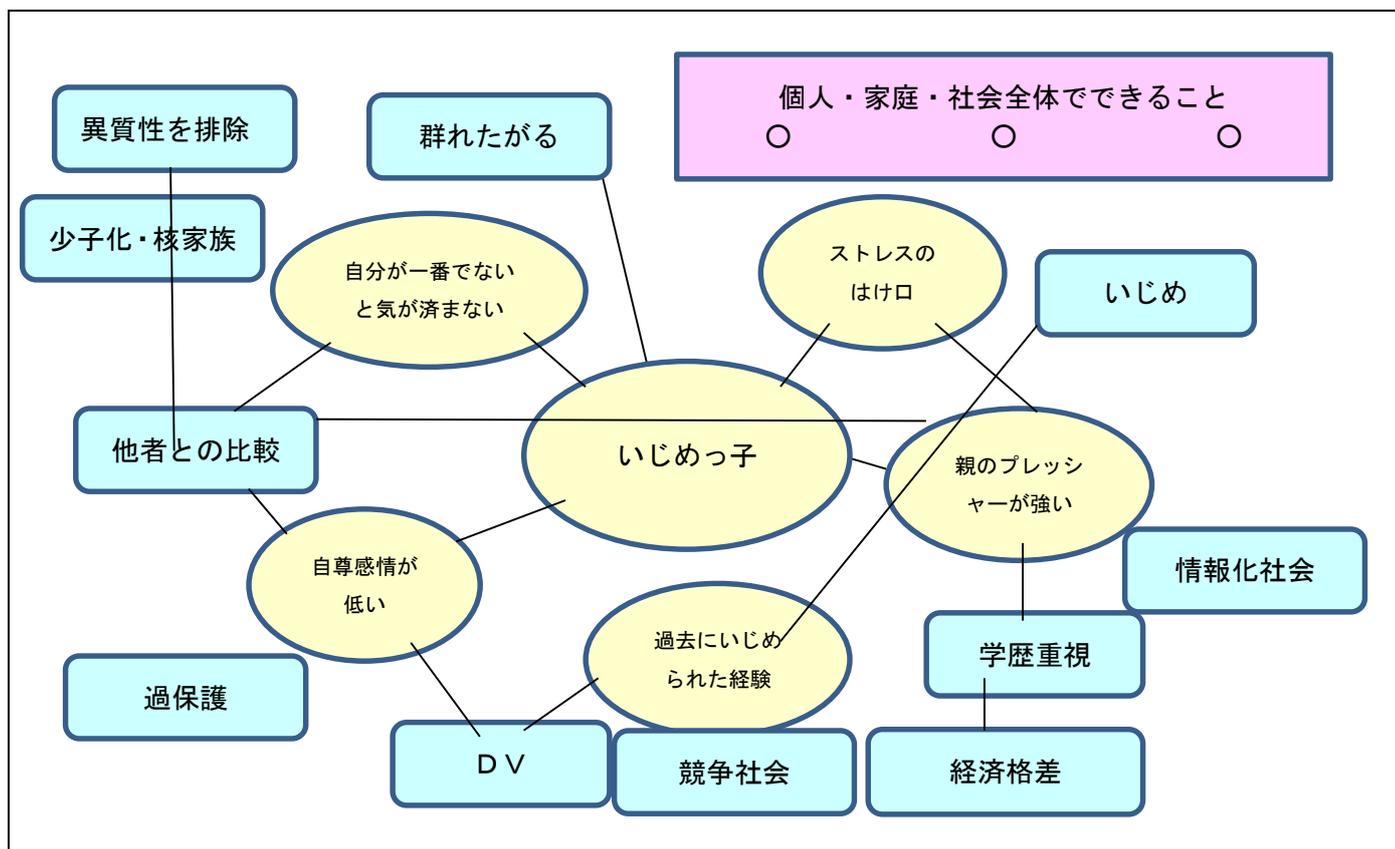
流れ	分	主 な 活 動	主 な 発 問	留 意 点
導 入	5	1 本研修会のねらいや進め方の説明をする ・話し合いのルール確認（参加・協力・守秘）	<p>■「まじめなおしゃべり」という感覚で、肩の力を抜いて参加してください。（全体の前で意見発表する場面はありません。）</p> <p>参加：進んで参加、パスもOK 協力：みんなで協力、答えを導き出す 守秘：出てきた個人情報、置いて帰る</p>	<p>◆ファシリテーターは自己紹介する。</p> <p>◆「参加・協力・守秘」を板書しておく。</p>
	5	2 アイスブレイクをする	<p>■立ち上がって体を使うレクリエーションをしましょう。（姿勢を正したり、ストレッチしたりするだけでもOK）</p> <p>・子どもの好きなおかず、元気になる食べ物等を出し合いながら自己紹介タイム</p> <p>■今日は、発表の場はありませんので、安心して参加してください。</p>	<p>◆いきなりペアで体の接触があるレクリエーションは避ける。</p>
展開1	30	3 どんな子が“いじめられる子”になりやすいか考える （いじめっ子の特徴をつくり出す背景について考える）	<p>■今日の学習では、子どもたちをいじめに向かわせている背景を考えることを通して、いじめをしない親子の在り方や社会の在り方について一緒に考えていきたいと思います。</p> <p>■まず、模造紙の真ん中に「いじめられる子」と書き、そこから展開例のように枝をだし、いじめられる子の特徴（性格等）を順番に書きましょう。</p> <p>■次に、その特徴（性格等）をつくり出している背景にはどのようなことが考えられるか、書かれている特徴（性格等）から枝を延ばして書きましょう。</p> <p>■さらに、その背景をつくり出している要因はないか考え、あればそこから枝を延ばして、その内容を書きましょう。</p> <p>■関連があると思われる内容を線でつなぎましょう。</p> <p>◆枝がなかなか延びないグループは、他のグループの邪魔にならないように偵察にいつでも構いません。（時間を決めて偵察タイムを設ける。）</p>	<p>◆模造紙の使い方について展開例を示しながら説明していく。</p> <p>◆黒マジックを全員が持ち記入する。</p> <p>◆会話をしながら思いつくものから記入するよう助言する。</p> <p>◆考えた内容は単語でも文章でもよいことを助言する。</p> <p>◆出にくい班には、一例を出す。</p> <p>◆いじめの原因は家庭に問題があるとは限定的にならないよう、社会的な背景に目を向けるように助言する。</p>
展開2	20	4 いじめに向かわせないためにできることについて考える	<p>■様々な要因が子どもをいじめに向かわせているのではないかと考えていきます。</p>	<p>◆日常生活と結びつけて考えるよう助言する。</p>

		※模造紙のあいている箇所に記入	<ul style="list-style-type: none"> ■では、個人で、家庭で、社会全体で取り組めそうなことを自由に話し合い、空いている箇所に（赤マジックで）書き、四角で囲みましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ファシリテーターは、話合いの内容を把握しておく。 ◆会話をしながら記入するよう助言する。
まとめ	10	5 ギャラリーウォークをする	<ul style="list-style-type: none"> ■他のグループの活動の成果を見て回しましょう。 ■「共感した」考えにはシールを貼りましょう。 ■この活動を通して気付いたことを話し合しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「共感シール」等配付する。
	5	6 元のグループに戻って話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ■絶対にいじめに向かわない子を育てる為に、大切なことを皆さんで共有したいと思います。 ・大人が話合いで出たキーワードに振り回されないことが大切であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆まとめる必要のないことを確認する。
	10	7 ファシリテーターのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ■最後に、資料を読みます。家庭で、今日の研修について話をしてもらえたらと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ファシリテーターの経験も交えながらまとめを行う。 ◆発表の場を持たないので、ファシリテーターは、各班の意見を積極的に聞き、あとで紹介する。 ◆資料を配布する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッサー ・大人のいじめ対応姿勢5カ条

※資料については、子どもに対する偏見や差別をなくす取組の参考になるものが望ましい。

参考：東京電力福島第一原子力発電所事故により避難している福島県民に対する偏見や差別、とりわけ県外に避難している子どもたちに対する偏見や差別をなくすよう十分な施策を求める会長声明

展開例



資料1

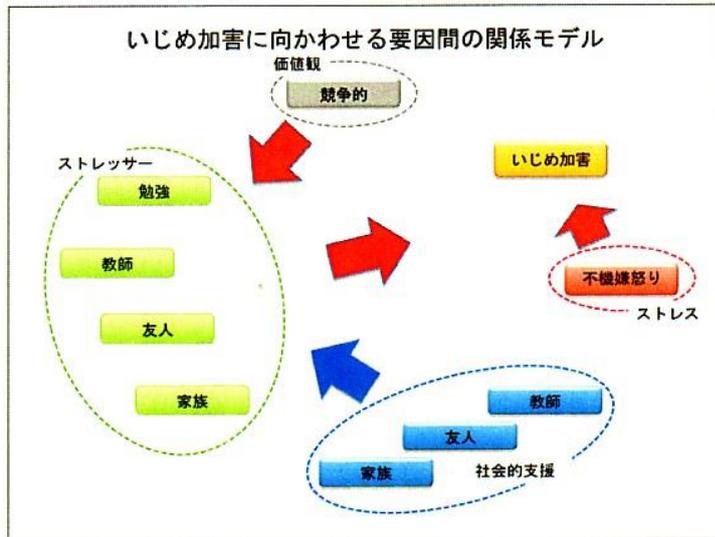
「いじめの追跡調査2007～2009 いじめQ&A」 (国立教育政策研究所生徒指導研究センター)

いじめに向かわせる要因は、何か？

『いじめ追跡調査2004－2006 Q&A』では、相関係数を手がかりに、いじめの未然防止に有効な対策は、①ストレスの原因となるストレスラーを減らすこと、②ストレスがあっても行為に及ばないようハードルを高くする(規範意識を高める)こと、の二通りが中心になるであろうことを指摘しています。その後、新しい知見は得られましたか？

誰もがいじめに巻き込まれるということは、家庭環境や個人的な資質に問題があるかどうかとは必ずしも関係なく、その時々で状況でいじめが起きていることを意味します。そこで、前回の小冊子では、加害行為と関連の深い要因として、ストレスやストレスラー(ストレスをもたらす要因)の存在を指摘してきました。

今回は、その議論を一步進める形で分析を行った結果を紹介します。まず、いじめの加害経験と関連の深い(相関係数の大きい)要因を選び出し、それらの要因間に想定される影響の道筋(パス)を仮定します。今回の調査では、ストレスやストレスラーがいじめにつながるという先行研究を踏まえ、下の図に示したようないじめ発生のメカニズムを想定した調査票が使われています(これを、いじめ－ストレスモデルと呼んでいます)。調査によって実際に得られたデータをこのモデルにあてはめてデータ処理(共分散構造分析)を行い、要因間の関係の強さを見たのが右頁です。



※赤色の矢印は対照となる事象を促進するように働くことを、青色の矢印は抑制するように働くことを、それぞれに示している。
 ※各要因を測定する尺度(調査項目)は下の表の通り。

○尺度と調査票の質問項目

〈いじめ加害の尺度〉

- ・仲間はずれにしたり、無視したり、陰で悪口を言ったりした
 - ・からかったり、悪口やおどし文句、イヤなことを言ったりした
 - ・軽くぶつかったり、遊ぶふりをして、叩いたり、蹴ったりした
- 〈ストレスの尺度〉

(不機嫌怒り)

- ・いらいらする
 - ・ふきげんで、おこりっぽい
 - ・だれかに、怒りをぶつけない
- 〈ストレスラー(ストレスの原因)の尺度〉

(勉強)

- ・授業中、わからない問題をあてられた
- ・授業が、よくわからなかった
- ・テストが返ってきて、点数が悪かった

(教師)

- ・先生が、よくわけを聞いてくれずに、おこった
- ・先生が、相手にしてくれなかった
- ・先生が、えこひいきをした

(友人)

- ・勉強のことで、友だちにからかわれたり、ばかにされたりした
- ・顔やスタイルのことで、友だちにからかわれたり、ばかにされたりした
- ・自分のしたことで、友だちから悪口を言われた

(家族)

- ・家の人が、成績や勉強のことをうるさく言った
- ・家の人が、友人関係や生活面のことをうるさく言った
- ・家の人の期待は大きすぎると感じた

〈社会的支援の尺度〉

(教師から)

- ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
- ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる

- ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
- (友人から)

- ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
- ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる

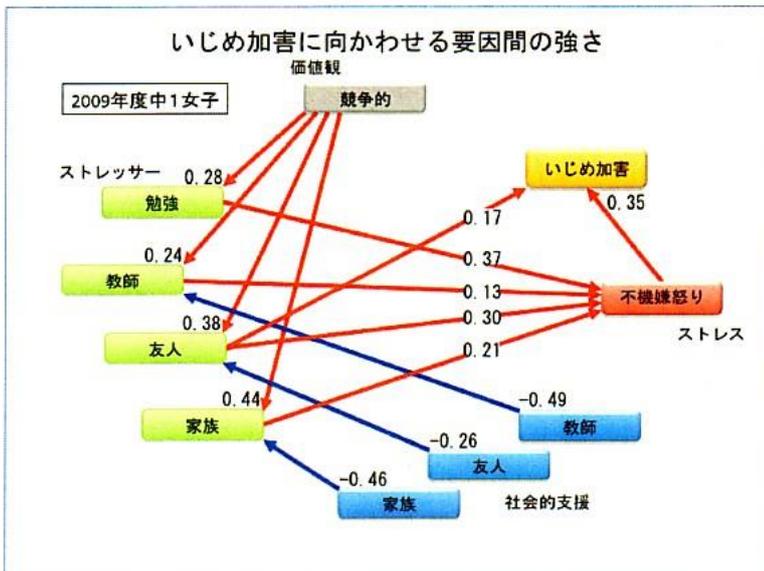
- ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
- (家族から)

- ・もし、あなたに元気がないと、すぐに気づいてはげましてくれる
- ・もし、あなたが、悩みや不満を言っても、イヤな顔をしないで聞いてくれる

- ・ふだんから、あなたの気持ちを、よくわかろうとしてくれる
- 〈価値観の尺度〉

(競争的)

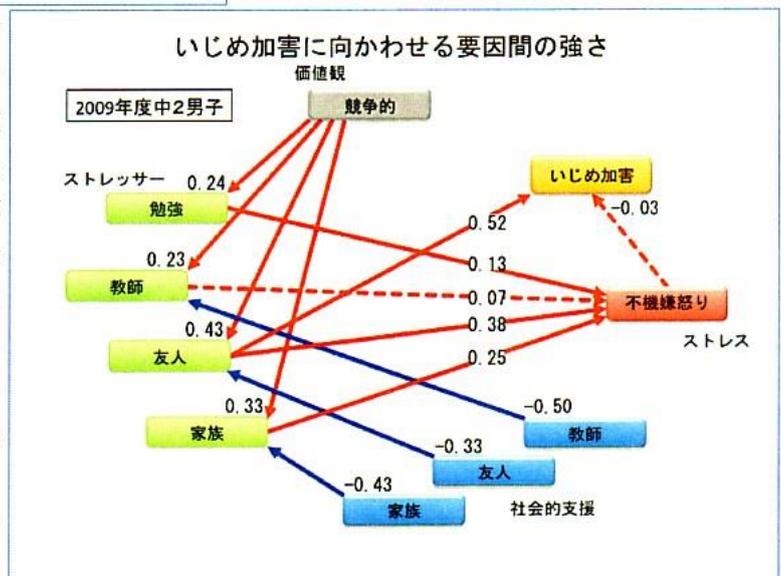
- ・これからの世の中では、勉強の成績が悪いとみじめだ
- ・これからの世の中では、顔やスタイルがよくないとみじめだ
- ・これからの世の中では、人よりも得意なことがないとみじめだ



たとえば、2009年度の中学1年生の場合、左の図のような結果が得られました。まず、「競争的価値観」が強いほど、「勉強ストレス」「教師ストレス」「友人ストレス」「家族ストレス」を感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど、それぞれのストレスを感じにくくなる。そして、こうした様々なストレスが「不機嫌怒りストレス」を経由して、「いじめ加害」に結びつく。さらに、「友人ストレス」は、直接にも「いじめ加害」に向かわせる働きをする — という道筋が想定できます。

それに対して、同じ2009年度の中学校2年生

の男子の場合、やや異なる道筋が示されています(右図)。「競争的価値観」が強いほど、ストレスを感じやすくなり、他方で「教師からの支援」「友人からの支援」「家族からの支援」が強いほど感じにくくなる。そして、ストレスが強いほど、「不機嫌怒りストレス」を高める — ここまでは同じです。ただし、「教師ストレス」の「不機嫌怒りストレス」に対する影響は、必ずしも強くはない(統計学的に有意ではない)し、「不機嫌怒りストレス」も「いじめ加害」に影響を及ぼしません(共に、破線で表示)。「いじめ加害」に結びつくのは、もっぱら「友人ストレス」であり、他のストレスは無関係と考えられます。



2007～2009年度の小学校4年生～中学校3年生までの男子と女子、計36組(3年間×6学年×2種類)にどのような道筋が確認できるかを調べてみると、36組のうち、①23組は各種ストレスが「不機嫌怒りストレス」経由で間接的に、さらに「友人ストレス」は直接的にも、「いじめ加害」に影響を及ぼしており(左上の図のタイプ)、②13組は「友人ストレス」だけが「いじめ加害」に直接に影響を及ぼしている(右下の図のタイプ)、ということが分かりました。ちなみに、すべてのストレスが必ず「不機嫌怒りストレス」に影響するわけではなく、36組中25組では「教師ストレス」、12組では「勉強ストレス」、6組では「家族ストレス」、2組では「友人ストレス」(以上、重複あり)が影響を及ぼしていませんでした。つまり、「いじめ加害」に向かわせる要因はある程度まで特定されているものの、実際にどの要因が強く働くかは時々状況によって異なり、そこに学年進行や男女差等による一貫した傾向は見られません。

ただ、「いじめ加害」に対する影響には、直接的なものだけではなく、間接的なものもあります。たとえば、「競争的価値観」は、直接には「いじめ加害」に影響を及ぼしませんが、各種ストレスを高めることで「不機嫌怒りストレス」や「いじめ加害」に間接的に影響を及ぼしていることに注意すべきです。直接的な影響(直接効果)と間接的な影響(間接効果)の合計を総効果と呼びますが、この総効果を順位で比較することで、何が影響力を持っているかを判定してみましょう。

まず、最も影響を与えていると考えられるのは「友人ストレス」です。36組中31組で第1位、5組で第2位の影響力を持っており、直接的にも間接的にも影響力が大きい要因です。次に、「競争的価値観」です。間接効果しかないにもかかわらず、36組中2組で第1位、19組で第2位、15組で第3位の影響力を示しています。そして、様々なストレスの影響を受ける位置にある「不機嫌怒りストレス」は、36組中3組で第1位、11組で第2位、14組で第3位あることが分かります。どうやら、この3つの要因がいじめの未然防止の鍵と言えそうです。

大人のいじめ対応姿勢 5 力条

(1) いじめられっ子に非なし

<どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う>

(2) 周辺こそがいじめの元凶

<いじめる子よりも周りの子への働きかけが大切>

(3) 昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手

<深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要>

(4) いじめの輪から新たな輪へ

<既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する>

(5) いじめっ子だって泣いている

<いじめる子の抱えるストレスにも目を向けて>

(鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二 氏 監修)

平成29年度ブラッシュアップ版
地域と共に創るとっとり人権教育事業で
開発した人権教育プログラム綴
(社会教育編)

平成30年12月

発行

鳥取県教育委員会事務局人権教育課

〒680-8570 鳥取市東町1丁目271番地

電話 (0857) 26-7534 (直通)

ファクシミリ (0857) 26-8176